

修士論文  
2010年1月

訪問看護師の仕事ストレスの尺度開発と属性・職務満足感との関連

指導 石川 利江 教授

桜美林大学大学院 国際学研究科  
人間科学専攻 健康心理学専修

207J5901

戸塚 智美

## 目次

はじめに.....	1
第1章 訪問看護師及び臨床看護師のストレスの現状とストレス尺度 .....	2
第1節 訪問看護師及び臨床看護師のストレスの現状と関連要因	
第2節 臨床看護師と訪問看護師の仕事ストレス尺度	
第2章 本研究の目的と意義 .....	5
第1節 本研究の目的	
第2節 訪問看護師の仕事ストレス研究の意義	
第3節 用語の定義	
第4節 本研究の構成	
第3章 研究1 訪問看護師仕事ストレス尺度の作成 .....	7
第1節 目的	
第2節 方法	
第3節 結果	
第4節 考察	
第4章 研究2 訪問看護師の仕事ストレス尺度(スタッフ用)の信頼性・妥当性の検討 .....	15
第1節 目的	
第2節 方法	
第3節 結果	
第4節 考察	
第5章 訪問看護師のストレス(スタッフ)と基本的属性との関連 .....	31
第6章 研究3 訪問看護師(管理者)の仕事ストレス尺度の作成と信頼性・妥当性の検討 .....	41
第1節 目的	
第2節 方法	
第3節 結果	
第4節 考察	
第7章 訪問看護師のストレス(管理者)と基本的属性との関連 .....	50
第8章 訪問看護師(管理者)と訪問看護師(スタッフ)の仕事ストレス項目の比較 .....	53
第9章 訪問看護師(管理者)と訪問看護師(スタッフ)のストレス反応の比較 .....	58
第10章 研究4 訪問看護師のストレスと職務満足感との関連 .....	61
第11章 総合考察 .....	66
引用文献 .....	70
資料	

## 1. 問題

近年、超高齢社会、在院日数の短縮、在宅志向の高まりから在宅医療、訪問看護事業の体制整備が急務となっている。介護保険等の在宅医療の整備が進む中、訪問看護師の過重労働やストレスが報告されている。訪問看護師の精神健康状態(GHQ28)は健常者群と神経症群の中間に位置し(小林ら,2006)、業務内容に関するストレスは、医療処置を実施するときの判断や在宅で医療処置を実施することに戸惑い・悩みを持つとされる(岩本ら,2001)。また、信平ら(2005)は、臨床経験が少なく、若い訪問看護師の方が職場の対人関係に対し、ストレスが高いと報告している。このように、家庭を訪問して看護を行うことから訪問看護師特有のストレスがあると考えられているが、その研究は数少ない。また、訪問看護師のストレスに関する尺度においても、松山ら(1999)、仁科ら(2005)の尺度が発表されているが信頼性・妥当性における課題が指摘されている。以上のことから、本研究では、訪問看護師の仕事ストレス尺度を作成し、訪問看護師の仕事ストレスと属性・職務満足感との関連を検討することを目的とした。

## 2. 研究 1

[研究 1]では訪問看護師が負担や不快と感じる内容を明らかにするために首都圏の訪問看護ステーション 5カ所に勤務する訪問看護師 33 名に対し、自由記述の質問紙調査を行った。得られたデータを意味のある文節に分け、質問項目毎に記述内容をカテゴリ化した。データ数は 259 箇所得られ、回答の中には「1 時間を 2 人きりで過ごさないといけない」、「専門医とかかりつけ医の考え方が違う」、「他の訪問看護ステーションとの連絡・連携がうまくいかない」の回答から一人暮らしの方や日中家族のいない世帯が増えたこと、訪問看護に関する整備が進んだ影響から生じるストレスが見受けられた。今回の調査結果と仁科ら(2007)の尺度を参考に管理者用 54 項目・スタッフ用 54 項目(44 項目は同様)の訪問看護師仕事ストレスの質問紙を作成した。

## 3. 研究 2

[研究 2]では、[研究 1]で作成した訪問看護師の仕事ストレス尺度を使用し、訪問看護師(管理者 101 名、スタッフ 474 名)を対象に質問紙調査を行った。調査内容は訪問看護師仕事ストレス 54 項目(管理者用あるいはスタッフ用)、SRS-18(鈴木ら,1997)3 因子 18 項目、職務満足感尺度(安達,1998)7 因子 19 項目、基本的属性(個人属性・職場環境)とした。調査の結果、回答は 348 名(回収率 60.5%)、欠損値の多い 16 名を除き 332 名(管理者 76 名、スタッフ 256 名)を分析対象とした。訪問看護師の仕事ストレス尺度(スタッフ用)を因子分析した結果、『人間関係』、『看護ケア』、『訪問看護業務』、『緊急時の対応』、『役割行動』、5 下位尺度 31 項目から構成される尺度が作成された。尺度の信頼性はクロンバック  $\alpha = .74 \sim .93$  という比較的高い値が得られ、本尺度の信頼性が確認された。妥当性の検討については、弁別的妥当性において高ストレス群と低ストレス群の SRS-18 得点の差の検定をしたところ、全ての尺度で高ストレス群の方が有意に高い得点を示した。次に、スタッフのストレスと訪問看護経験年数との関連を検討した結果、『役割行動』については経験の少ないスタッフほどストレスが高く、『緊急時の対応』については経験年数が多い訪問看護師ほどストレスが高いことが明らかとなった。さらに、訪問看護師(スタッフ)仕事ストレスと属性との関連を見るためにスタッフのストレス得点を従属変数に属性を独立変数にして重回帰分析を行った結果、残業日数が増えるほどスタッフのストレスは高くなり、年齢が若いスタッフほどストレスを感じていることが明らかとなった。

#### 4. 研究 3

〔研究 3〕では、訪問看護師の仕事ストレス尺度(管理者用)の信頼性・妥当性を検討した。〔研究 2〕で調査した管理者の訪問看護師仕事ストレス(管理者用)を因子分析した結果、『人間関係』、『看護ケア』、『管理者業務負担』、『緊急時の対応』、『単独訪問』の 5 下位尺度 40 項目から構成される尺度が作成された。尺度の信頼性はクロンバック  $\alpha = .74 \sim .93$  という比較的高い値が得られ、本尺度の信頼性が確認された。しかし、弁別的妥当性の検討では『人間関係』と『単独訪問』において有意差が認められなかった。尺度の特徴としては管理者のストレス尺度は管理者としての責任を伴うような看護ケアや事務仕事がストレス因子となっていた。属性との関連を検討した結果、年齢では 39 歳以下、臨床看護経験年数では臨床経験の少ない管理者ほどストレスが高いことが明らかとなった。

#### 5. 研究 4

〔研究 4〕では、訪問看護師の職務満足感の検討を行った。職務満足感は安達(1998)の結果と比較すると訪問看護師の方が高い結果を示した。職位では管理者の方が「職務内容」と「利用者・家族との関係」で有意な高い得点を示し、「職場の人間関係」ではスタッフの方が有意に高い得点を示していた。勤務形態では、非常勤の訪問看護師が「職場の人間関係」で高い値を示し、年齢では 40 歳以上の訪問看護師が高い得点を示していた。さらに、訪問看護師(スタッフ)仕事ストレスと職務満足感との関連を見るために重回帰分析を行った結果、『人間関係』のストレスが低い訪問看護師ほど職務満足感が高くなることが明らかとなった。

#### 6. 総合考察

訪問看護師仕事ストレス(スタッフ用)の尺度は信頼性・妥当性の高い尺度が作成できたが、管理者用は対象者が少なかったため妥当性に課題が残った。尺度の相違点はスタッフでは『役割行動』が管理者では『単独訪問』が抽出されたことであった。重回帰分析の結果、スタッフは残業日数が増えるほどストレスが高くなり、年齢が若いスタッフほどストレスを感じていることが明らかとなり、職場環境の整備と年齢の若い・訪問看護の経験の浅い看護師に対する受け入れ体制と支援が必要なが示唆された。一方、ベテランの訪問看護師においても緊急時の対応におけるストレスが高くなり、若い訪問看護師だけでなく、ベテランの看護師についてもターミナルケアなどの研修体制の整備やターミナルや緊急時におけるストレスに対する支援が必要であることが示唆された。

#### 7. 本研究の限界と課題

- 1) 本研究の対象者は首都圏の訪問看護師を対象とした。居住地域によってストレスが異なる可能性が高いことから、今後は対象地域を広げた調査を行うことが必要と考える。
- 2) 管理者のストレス尺度については妥当性の点で課題が残った。今後は、調査対象者を増やし、信頼性・妥当性の高い尺度を作成していくことが必要と考える。
- 3) 本研究結果では、訪問看護師は訪問看護業務や人間関係、過重業務、緊急時の対応等のストレスがあるにもかかわらず、職務満足感が高い結果となった。ゆえに、訪問看護師にはストレスに対する対処行動があると予測する。これらの点を明らかにするために、コーピングやソーシャルサポートとの関連についても検討することが必要と考える。

## 主要な引用文献

- 安達智子(1998). セールス職者の職務満足感—共分散構造分析を用いた因果モデル—, 心理学研究 69(3), 223-228
- 安東由佳子, 片岡健, 小林敏生(2006). 神経難病患者のケアに携わる看護師のバーンアウトに影響を及ぼす職場環境ストレスの探索, 日本看護研究学会雑誌 29(1), 45-55
- Gray-Toft, p., & Anderson, J.G. 1987 The Nursing Stress Scale: Development of an instrument. Journal of Behavioral Assessment, 3, 11-23
- 東口和代, 森河裕子, 三浦克之, 西条旨子, 田畑正司, 中川秀昭(1998). 臨床看護職者の仕事ストレスについて, 健康心理学研究 11(1), 64-72
- 石川ひろの, 柏木聖代, 福井小紀子, 松浦志のぶ, 川越厚 (2007) 在宅がん末期患者のケアにおける訪問看護師と医師との連携に関する研究, プライマリ・ケア 30(3), 242-247
- 磯和勅子 (2004). 看護師の職務ストレス, バーンアウト及び身体的健康問題の関連 質問紙及び免疫指標からの検討, 行動医学研究 10(1) 25-33
- 加藤英子(2008)在宅ターミナルにおける訪問看護師の困難感, 日本看護学会論文集: 地域看護 38, 12-114
- 近藤望, 竹山未歩子, 中町仁美, 河原田まり子(2007). 在宅ターミナル期の家族支援に対する訪問看護師の困難感 緩和ケア 2 170-174
- 厚生労働白書(2001). ゴールドプラン 21
- < <http://www.hakusyo.mhlw.go.jp/wpdocs/hpax200101/b0130.html> > (2009年1月13日)
- 厚生労働省:平成19年介護サービス施設・事業所調査結果の概況
- < <http://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/kaigo/service07/index.html> > (2009年12月29日)
- 小林裕美, 乗越千枝 2006 訪問看護のストレスに関する研究 訪問看護に伴う負担と精神健康状態(CHQ)および首尾 一貫感覚(SOC)との関連について 保健の科学 48 391-397
- 久保真人, 田尾雅夫(1994). 看護婦におけるバーンアウト ストレスとバーンアウトとの関係, 実験社会心理学研究 34(1), 33-43
- 松井妙子, 岡田進一 2003 大阪府内の訪問看護職の burnout に関連する要因 利用者とのコミュニケーション技術と職務環境を中心に 日本在宅ケア学会誌 1 40-48
- 松山洋子, 若佐柳子, 青木きよ子(1999). 訪問看護婦のストレス因子の検討, 看護研究 32(6) 51-58
- 三木明子, 原谷隆史(2002). 看護師の年代別職業性ストレスの特徴 看護師ストレス尺度を用いた検討, 日本看護学会論文集看護総合 33 68-70
- 光本いづみ, 松下年子, 大浦ゆう子(2008). 訪問看護師の仕事負担感や就業継続意思と業務特性との関連, 産業医科大学雑誌 30(2), 185-196
- 中野康子 2008 訪問看護師の勤務継続と職務満足との関係, 兵庫県立大学看護学部・地域ケア開発研究所紀要 15 pp.43-59
- 贅川信幸, 松田修(2005). 看護師のバーンアウトとサポート源の関連に関する研究, こころの健康 20(1), 25-35

- 仁科祐子, 谷垣静子(2005). 訪問看護師の職業ストレスに関する研究 職位別のストレスの検討  
訪問看護と介護 10 840-849
- 仁科祐子, 谷垣静子, 乗越千枝(2007). 鳥取県内の訪問看護ステーションに勤務するスタッフナース  
の個人・職場要因と職業ストレスとの関連, 米子医誌 58, 15-24
- 信平牧子, 島内節, 清水洋子(2005). 在宅ケア機関の 24 時間体制と訪問看護師の負担感に関する研究 日本看護学会論文集: 地域看護 35 131-133
- 岡安孝弘, 嶋田洋徳, 丹羽洋子, 森俊夫, 矢富直美(1992). 中学校の学校ストレスの評価とストレス  
反応との関係, 心理学研究 63 310-318
- 鈴木伸一・嶋田洋徳・坂野 雄二(1995) 新しい心理的ストレス反応尺度(SRS - 18)の作成, 日本行動  
医学会第2回学術総会論文集, 112-113
- 鈴木伸一・嶋田洋徳・三浦正江・片柳 弘司・右馬埜力也・坂野 雄二(1997) 新しい心理的ストレス反  
応尺度(SRS - 18)の開発と信頼性・妥当性の検討, 日本行動医学会4(1) 22-29
- 週刊医学会新聞(2008). 訪問看護事業に求められるビジネスモデルの再構築 2008年8月25日<  
[http://www.igaku-shoin.co.jp/paperDetail.do?id=PA02794\\_03](http://www.igaku-shoin.co.jp/paperDetail.do?id=PA02794_03)>(2009年1月13日)
- 富岡小百合, 石澤恵, 大竹まり子, 赤間明子, 佐藤千史, 鈴木育子, 小林淳子, 叶谷由佳(2007)訪  
問看護師の職務満足に関連する要因, 日本在宅ケア学会誌 11(1) 43-51
- 梅原麻美子, 古瀬みどり, 松浪容子 2007 A 県内の訪問看護師の処遇・職務環境とバーンアウトとの  
関連 北日本看護学会誌 9 27-33